世界の国旗プリントシリーズ

ヨーロッパ地域の国旗クイズプリント【由来→国名】

解 答

つぎの国旗の由来を読んで、 国名を答えてみましょう。

同じデザインで青と赤を取り替えるとノルウェーの国旗になる。白と青は民族衣装として長年国民に親しまれてきた色で、1897年に非公式に取り入れられた旗も、青地に白の横長の十字が描かれたもの。

アイスランド共和国

以前のアイルランドの旗は、緑地に黄色のハープ模様の非公式のものだった。左端の緑色はカトリックを、右端のオレンジ色はプロテスタントを表し、中央の白は両教徒が融和することを表現している。

アイルランド

双頭のワシは、15世紀に民族の英雄であるスカンデルベグが掲げた旗から受けついだもの。アルバニア人は、ワシの子孫という伝説に由来する。社会主義政権がくずれ、以前はあった星のデザインがなくなった。

アルバニア共和国

紋章と色のデザインが、フランスとスペインの国旗の影響を受けている。1866年に国旗が掲げられてから、さまざまな紋章の変遷を経て、1996年に現在の形に落ち着いた。

アンドラ公国

イングランドの白地に赤十字、スコットランドの青地に斜め赤十字を組み合わせ、アイルランドの白地に斜め赤十字を足して連合王国を表現している。

イギリス（グレートブリテン・北アイルランド連合王国）

緑・白・赤の3色は、ナポレオンが作ったチザルピーナ共和国国旗からきていて、フランス国旗の影響も受けている。イタリア市民用の海上国旗には、4つの海洋都市をモチーフにした紋章がデザインされている。

イタリア共和国

青色と黄色は1848年に独立を目指した民衆がシンボルとして掲げたもので、1918年から1921年までは臨時政府の国旗としても使用。1996年に比率を変更して今の形になった。青は空を、黄は小麦を表している。

ウクライナ

1884年にエストニア学生会によって制定され、ソ連邦から再独立した際にまた国旗として復活した。青色は空と自由を、黒は祖国の大地を、白は自由への思いと明るい未来のシンボルとなっている。

エストニア共和国

上段から赤・白・赤で構成されていて、十字軍が遠征した時代に、オーストリア辺境伯の白衣が敵の返り血でベルトの部分を除いて赤く染まった故事に由来する。政府用の国旗には、黒いワシの紋章が描かれる。

オーストリア共和国

16世紀後半のスペイン戦争時代に、オレンジ公にちなんだ上段からオレンジ・白・青の旗を使っていたのがもとになっている。その後、オレンジ色を赤色に変更したが、それは海で変色しやすいからといわれている。

オランダ王国

もともとは、青に白十字の旗を、独立戦争の際のトルコの赤い新月旗に対抗するような形で掲揚されていた。9本の横線は、独立戦争時代の「Ε λ ε υ θ ε ρ ι α η Θ α ν α τ ο ς」（自由か死か）の9音節に由来する。

ギリシャ共和国

赤・白・青は、スラブ地域で頻繁に使用される色である。海上で使用される国旗の比率は2：3である。真ん中に配置された国章は、古クロアチアの5地域を表現する紋章と、民族の模様であるチェック柄がデザインされている。

クロアチア共和国

白と青はフランス革命の後から使用されている。青は空とアドリア海を表し、白はティターノ山の雪とたなびく雲、さらに純粋さを表現している。政府用の国旗には、3つの峰と塔、王冠などがデザインされた紋章がついていて、紋章の下にはイタリア語で「自由（LIBERTAS）」と書かれている。

サンマリノ共和国

ローマ皇帝が1240年にシュビーツ州旗として制定した旗がもとになっていて、1848年連邦軍の旗となる。陸上用の旗は正方形であるが、水上用の旗は比率が2：3である。十字はキリスト教のシンボル。

スイス連邦

横長の十字架はスカンディナヴィアンクロスとの呼び名があり、北欧諸国に共通して使用される。青と黄色は国章の色に由来していて、青は湖を表し、黄色は金色に輝く太陽を表現。毎年6月6日は国旗の日として祝祭を行う。

スウェーデン王国

「血と金の旗」とも呼ばれ、赤と黄色は13世紀当時の4つの王国の王紋に使用されていた色にちなんでいる。1785年以降はスペインのシンボルカラーとなっている。フランコ時代はワシのマークが入っていた。現在の紋章は古イベリア半島の5つの王国の紋章とヘラクレスの柱をデザインしたもの。

スペイン

1848年にはじめて掲げられた旗は、スラブ民族のシンボルである白・青・赤の汎スラブ色の3色旗だった。チェコと分かれたときに、ロシア連邦の国旗と見分けがつくように国章をつけた。紋章には、キリスト教を表現するダブルクロスと国土の山がデザインされている。

スロバキア共和国

白・青・赤の汎スラブ色は19世紀からスラブ民族運動の象徴として採用されている。スロベニアが旧ユーゴから独立した際に国章がついた。国章には、国土にある最高峰のトリグラフ山をかたどったもので、川と海を示す2本の波線、3つの金色の六芒星がデザインされている。

スロベニア共和国

1930年に作られたセルビア公国の国旗がもとになっている。赤・青・白はスラブ民族独立の象徴となる色である。中央からやや左寄りに国章が配置され、国章には王冠と双頭のワシが胸に盾を持った「カラジョルジェビッチ家の紋章」が描かれている。

セルビア共和国

旧チェコ・スロヴァキア連邦共和国の旗を、スロバキアが独立した後もそのまま使っている。連邦共和国当時、1990年から1993年までのチェコ共和国の国旗は紅白の横2分割の旗だった。

チェコ共和国

現在ある国旗の中で最古といわれ、スカンジナビアクロスの先駆け。1854年以降は市民用としても使われている。1219年のエストニア人との闘争のときに、国王のもとに旗が降りてきたのをきっかけにして逆転勝利したという言い伝えがある。

デンマーク王国

黒、赤、黄（金）の3色は、19世紀のはじめにナポレオン軍との闘争に加わった学生義勇軍の軍服の色に由来する。黒・赤・黄はそれぞれ勤勉・情熱・名誉を表現していて、ドイツ国家のシンボルである。政府用の国旗にはワシの紋章が入る。

ドイツ連邦共和国

かつてはスウェーデンとデンマークの支配下に置かれていたため、2つの国の国旗を組み合わせた図案になっている。北欧諸国の習慣として政府用の国旗は燕尾形をしている。

ノルウェー王国

バチカンの国旗は正方形。19世紀の初頭に教皇ピウス7世によって黄と白の旗に決められた。右側の国章には、三重冠と呼ばれる教皇が公式行事の際にかぶる冠が配され、交差する金と銀の鍵は聖俗両面で教皇が支配することを意味している。

バチカン市国

赤・白・緑の3色旗。フランス革命の影響を受けて正式に採用されたものだが、動乱前もこの3色は使用されていた。赤は尊い血の犠牲と強さを表し、白は清らかな国民の心と忠実を、緑は希望を表現している。

ハンガリー

独立する前にいろいろな旗の提案がされたが、詩人ザクリス・トペリウスによって雪の白と湖の青こそがフィンランドにふさわしいと主張され、それを採用。1978年に青の色調が変わった。北ヨーロッパ諸国に多いスカンジナビアクロスのデザイン。

フィンランド共和国

以前は左から赤・白・青だったが、旗面が青だと海の上では色が溶け込んで紅白の2色旗のように見えるため、左から青・白・赤に変更した。赤と青はフランス革命軍が帽子につけた帽章に由来し、白はブルボン朝のシンボルである白百合に由来している。

フランス共和国

上段から白・緑・赤に染め分けた3色旗で、ロシア帝国の国旗をもとにしてデザインされた。白は純潔と親善と平和を表し、緑は農業と豊かさを、赤は愛国心と国民の勇気を表現。民主化後に国旗から国章を外した。

ブルガリア共和国

かつては社会主義の象徴であるハンマー・カマ・星が描かれていたが、国民投票の末にこれらを除外して旧ソ連邦時代の国旗に戻した。赤は栄光ある過去を表し、緑は未来を表現している。

ベラルーシ共和国

政府用の国旗の比率は13：15である。黒・黄・赤は、黒字に赤い爪と舌の黄色いライオンの図案がついたブラバント大公の旗に由来するが、独立当初は横に赤・黄・黒の3色で構成されていた。

ベルギー王国

三角形はこの国のシルエットで、黄色と青はヨーロッパ連合の旗にちなんでいる。星の数には特に意味は込められていない。長野オリンピックが開催される直前に現在の図案になった。

ボスニア・ヘルツェゴビナ

白と赤は中世から使用されてきた色。ポーランドが分割してからは、外国の支配から独立を目指す象徴となった。政府用の国旗は、赤色の盾の中に白ワシをデザインした国章がついている。

ポーランド共和国

王政時代には青・白の2色旗だったが、共和革命以降は共和主義者のシンボルカラーを使用。旗竿側5分の2が緑、旗尾側5分の3が赤の配色。国章には7つの黄色い城・5つの青い盾・大航海時代の航海用具である天測儀がデザインされている。

ポルトガル共和国

赤地に8本の光線を描いた黄色い太陽の旗。1992年に採用した国旗は、アレキサンドロス大王にちなんだ星の紋章を配した旗だったが、ギリシャが反発した。そこで太陽光線の数を半分にするなどしてデザインを単純化して作られた。

北マケドニア共和国

左上に配された十字は、住民がナチスドイツに抵抗したのを記念してイギリスから贈られたセントジョージ勲章に由来する。一説によると、中世にノルマン公が紅白でこの島の旗を作ったことにちなんでいる。

マルタ共和国

赤と白の2色は、13世紀以降にこの土地を支配し続けてきたグリマルディ公家の紋章の色。14世紀からモナコの国民色になっているが特別な意味はない。政府用の国旗は白地に国章を配したデザインである。

モナコ公国

中央の国章を除くと隣の国のルーマニアと同じである。モルドバとルーマニアは同じ民族であるため深く関わっている。真ん中の国章は19世紀まで存在したモルダビアとワラキア両公国の紋章にちなんだもので、ワシとウシの頭などがデザインされている。

モルドバ共和国

赤地で周囲を金色で縁取り、真ん中に王冠をのせた双頭のワシの国章を配している。ワシの胸には聖マルコのライオンが歩いている姿を描いた盾があり、爪では王権の象徴である宝珠・王笏をつかんでいる。

モンテネグロ

世界中の国旗の中でも、もっとも古い旗の1つである。1279年のドイツ騎士団との戦闘で、指揮官の白い布についた血の色にちなんでいる。再独立のときに1918年から1940年に使用された旗をもう一度採用した。

ラトビア共和国

中世時代のリトアニア大公国は、白地に騎士をデザインした旗を使用していたが、今は1918年の独立時の旗の比率を変更して使っている。赤は祖国愛と勇気を表し、緑は豊かな森と希望を、黄色は小麦が実る平野と自由の象徴である。

リトアニア共和国

赤と青は、18世紀のヴェンツェル大公の使用人の制服にちなんだもので、それぞれ暖炉で燃える火と青空を表現している。1936年のオリンピックでは、ハイチの国旗と同じで紛らわしかったので翌年左上に大公の冠を配した。冠は統治者と国民が一体となることを表現。

リヒテンシュタイン公国

上段から赤・白・水色で構成される3色旗。この3色は国章の色からきているが、フランス革命の影響があって1815年に採用した。オランダの国旗に似ているが、青色の濃さと比率が異なっている。

ルクセンブルク大公国

左から青・黄・赤の3色は、19世紀まで存在したワラキアとモルダビアの2つの公国の国旗に由来している。王国時代や社会主義の時代には国章を配していたが、今ではつけられていない。

ルーマニア

帝政時代の国旗を復活させたもの。ピョートル大帝がオランダ国旗の色からとり、白・青・赤はスラブ3原色と呼ばれる。かつてのソ連邦時代に使用した赤旗は、社会主義国の旗のモデルとなっていた。

ロシア連邦